

10 月 23 日(水)と 10 月 24 日(木)に熊本県熊本市で開催された「『世界津波の日』2024 高校生サミット in 熊本」に 2 年生 3 名で参加しました。43 カ国・地域から来た海外参加者 213 名と国内参加者 313 名の計 647 名の高校生が参加しました。このサミットでは災害について各校が研究した成果を発表し、問題点と解決策について話し合いました。

## 『世界津波の日』2024 高校生サミット in 熊本について

### ○発表準備と本番

サミット参加に向けて、夏休み前頃から、発表内容の構想を練り始めつつ、学校紹介ムービーの作成をしました。東日本大震災を教訓とした発表にしたいと考え、保護者の方々と先生方にご協力いただき、アンケートを行いました。アンケート結果を踏まえ、よりよい発表ができるよう、仲間と共に当日まで何度も練習を重ねました。

テ ー マ

「東日本大震災から学ぶ、住民に寄り添った復興の在り方」

課 題

- ①情報周知
- ②高齢者・妊婦・子どもへの支援の充実

アクションプラン

- ①情報満載のポスター作成と掲示  
知っている情報に差が生じないように働きかける
- ②会話のパートナーになる

本番では、まず学校紹介で簡単に一高のことを紹介しました。食堂のたこ焼きが最高にウマイことをアピールしました。また、強歩大会のつらさを踏まえ、宮城に来たときにはぜひ“車で”秋保温泉に来てみてほしいと伝えました。みんなとてもノリが良く、トップバッターながらも場を和ませることができました。スライド発表では、英語でわかりやすく伝えることができました。みんな真剣に相槌を打ちながら聞いてくれて、気持ちよく発表することができました。後の意見交換の場でも、私達の発表の内容が持ち出され、一番伝えたかった内容が伝わっていてとても嬉しかったです。



## ○熊本“きずな”宣言

全国各地の高校生と世界各国の海外の高校生が自分たちの考える自然災害への防災・減災・復興についてグループごとに発表をしました。その後ユニットごとのディスカッションを通じて、互いに活発な意見交換を行いました。また、私たちは海外からの高校生と2人1組になって、植樹も行いました。なかなかできない体験だったので、とても貴重な経験になりました。

最終的には、「きずな」を深めた仲間とともに、防災のリーダーとして取り組みを進めていくという私たち若き津波防災大使の思いが込められた「熊本“きずな”宣言」を採択し、閉幕しました。



## 交流会について

24日の夜には交流会が行われました。海外学生による伝統的な歌や熊本県内の高校生による日本舞踊の披露がありました。同じグループでない海外の学生とも交流し、親睦を深めました。使用言語はもちろん英語です！様々な国・地域から来た高校生と交流できてとても貴重な経験になりました。交流会には、くまもんも来てくれました！



## 観光



初日の夜は北九州に展開する「資さんうどん」といううどん屋で、ごぼ天うどんを食べました。ごぼ天うどんは北九州のソウルフードで、ごぼ天にうどんのやさしいつゆがよくしみているのと同時に、サクサクの部分もあり、うどんがよく進む何杯でも食べられる美味しさでした。



24日の午後は熊本市内を観光しました。まずは熊本城に行きました。熊本城は、2016年に発生した熊本地震により、石垣や城壁の一部が崩壊しました。8年経った今でも復旧作業が続いており、災害による被害を直接見ることができました。「世界津波の日サミット」に参加し、災害についての考えを深めた直後に実際に災害の威力を感じたことで、今回話し合った復興や防災、減災に対するアクションプランを実行する大切さを感じました。